

全日本民医連第2回無料低額診療事業交流会 & 12・22 原発再稼働反対・国会大包囲集会に参加しました！

昨年 12/21～22 にかけて開催された全日本民医連第2回無料低額診療事業交流会に参加してきました。44 県連 188 名の参加でした。

都留文科大学・後藤道夫教授の記念講演では、「社会保障制度の動向を各種数値で検証して、生活保護と他の社会保障制度との間には巨大な谷間が存在し、その規模は 1500 万人程度となり人口の 1 割がそこにいる。この無保障・貧困層の大量存在は、国が推し進めている小さな社会保障を支える陰の大黒柱である。先進国の貧困感というのは、生活や教育・医療などにおいて社会標準型の生活ができるかどうかが指針になるべきであり、本来、社会保障は貧困を家庭に閉じ込めず、累進課税などによって税金を集め再分配することが国の役割である。しかし現実には逆に動いている」と安倍内閣による社会保障改革の中身を見ながら説明がありました。また、「この現在の制度が作りだしている谷間に対しては制度改革への運動と、緊急措置が必要であり、その緊急措置として無料低額診療事業は非常に大きな役割があるのではないかと」期待が述べられました。

指定報告では、無低診事業の事例や、調剤薬局の窓口負担助成の取り組み、地域に浸透させていく取り組みなどの 8 題の発表がありました。調剤薬局の取り組みでは、署名活動から調剤薬局でも無低診の対象に入れるように国に働きかけていく取り組みと、それまでの間無低診利用中の患者の薬剤費を市町村で助成してほしいという運動を両輪でおこなっている県連の報告や共同組織で協力して募金を作って薬剤費の基金を作った県連の報



告がありました。

2 日目の分科会では参加県連の各地の報告が聞けました。預貯金の取り扱いについては参加分科会の方に聞きました。どの県連も全く見ていないわけではないがその運用はケースごとに考えているという件が多かったです。

交流会終了後、日比谷野音と国会議事堂周辺で開催された原発再稼働反対・国会大包囲集会に参加してきました。15000 人の参加者で圧巻でした。(高松平和病院連携相談室 服部啓吾)

★全日本民医連名護市長選挙支援行動壮行会を開催！★

1/15 夕方、今週日曜日に投開票が行われる沖縄名護市長選挙支援壮行会を協同病院で開催しました。協同病院から、藤原 SW が休日を取り、選挙支援へ行くという事で、事務長作成のタペストリー、激励金 50,900 円 (29 名分) を預けました。



田中院長からは、「たとえ県知事が賛成したとしても、名護市の反対があれば簡単に基地はできない。海にも陸にも基地を作らせない県民の願いを実現するためにも頑張って頂きたい」と激励の言葉がありました。

(高松協同病院事務長室 大山哲也)

名護市長選挙支援に続き、来週末 (1/23～25) 行われる全日本民医連第 31 次辺野古新基地建設反対支援・連帯行動にも平和病院から二川課長、こどもクリニックから福永師長が参加します！